

「オッハヨっ♡  
カズキ!!」

「エリカっ!!  
お前こんな所でいきなり  
抱き着いてくんなんっ!!  
それにその…  
当たってるって!!」

「ええ  
この位ツツーじゃん?  
それとも嫌だったの?  
カズキ♡」

「嫌って訳じゃ…  
人前だとそういうの  
恥ずかしいだろ」

「フッフ  
照れ屋さん  
なんだから♡」

すいおう  
周防 エリカ (19)

エリカと俺は幼馴染  
子供の頃からエリカは  
積極的にスキップを取  
ってくる

ハーフである  
エリカの家では  
割とそれが普通のこと  
らしいが

大学生になった今でも  
エリカのこの  
異様に近い距離間には  
慣れないいや  
むしろエリカが  
大人になるにつれて  
俺はドギマギして  
しまっている

エリカのことは好きだ  
でも幼馴染の関係だと  
中々恋愛の話は  
切り出しづらい  
それにきつと  
エリカも俺のことを…

そう思って  
具体的な関係には  
踏み出さないまま  
俺たちは少しづつ  
大人になっていった

そんなエリカと  
連絡が付かなくなったのは  
1年ほど前だった

まああいつのことだから  
どこかで良い男でも見つけて  
気ままにやっっているんだろう  
程度に思っていたが  
心にもやもやは  
残ったままだった

そんなある日  
自宅に1枚の  
DVDが送られてきた  
俺宛の郵便物に  
心当たりはなかったが  
興味本位で俺は  
それを再生した



ん〜…

べちゅ

べちゅ

ん〜…

「ほらもっと♡  
恋人みたいに  
チュウしてよ♡  
お姉ちゃん♡」

「あらでもない姿で  
拘束された  
エリカの姿だった」

目を疑った…  
そこに映し出されて  
いたのは紛れもなく

「ほらほらお姉ちゃん♡  
折角撮ってるんだから  
もっと笑わないとw」

「アナタ、こんなことして  
許されると思ってるの？  
あんたみたいな子供  
ホントなら組み伏せ  
られるんだから」

「も〜怖いなあw  
街で見かけたときは  
もっと優しそう  
だったのにw」

脳の血管が  
ドクドクと脈打つのが  
分かった

俺は今  
とんでもないものを見ている

そう直感したが俺は  
はじめて見る  
エリカの裸に興奮していた

しかしそれ以上に  
気になることがある

一体これは  
どういう状況なのか？  
一緒に写っている子供は  
一体どこの誰なのか？

再生した手を動かすことが  
出来なかった

「じゃ〜んw  
今日からパパに頼んで  
手に入れて貰った  
新しいお姉ちゃんを  
調教していきま〜すw  
ハーフでおっぱいも  
この通りw」

「ちよっと!!  
気安く触らないで!!」

へらへらしながら  
自らの体を弄る男を  
睨み返し威嚇する  
エリカだが…  
そんなことは無駄だと  
俺でも分かった

「全く、随分うるさいな〜  
まあそんだけ騒ぐなら  
早速だけど」

「教育してあげないとね  
ボクのおチ●ポで♡」

それまで強気だったエリカの表情が  
一瞬で焦りと不安でひきつったのが  
分かった。それもそのはずだ  
子供のカラダには不釣り合いなほど  
大きくゴツゴツした逸物…

一瞬でわかった  
「おチ●ポはこの性器で今まで何人もの  
女性を墮とってきたんだ！」

身動きが取れず  
ただただ女性器を蹴られるエリカは  
先程までとは打って変わり  
エリカは顔を伏せて涙を浮かべながら  
男の腰使いにあわせて甘い声を漏らす…

「あれ〜w  
さっきまでの威勢は  
どうしたの〜お姉ちゃん♡w」  
「中〜こんな  
キョんキョんさせちゃってw  
良い所当たってるの〜♡  
ほら♡でしよ？♡」

♡おチ●ポ♡

キリキリ

ギシ

ハ〜

キリキリ

キリキリ

キュン

ポポ

ポポ

♡おチ●ポ♡

「うう…カズキ…カズキい！」

「あれ？wもしかして  
お姉さん彼氏いたの？w  
そりゃあ悪いことしちゃったねw」

画面の向こうから  
僕の名前を呼ぶエリカの声がする…

その時ようやく実感した。僕は今  
好きな人を目の前で犯されているんだ

ずっと一緒に育ってきて  
可愛らしくて悪戯好きな  
俺の好きな人は…

おチ●ポ

んん

ズン

ズン

おチ●ポ

おチ●ポ

おチ●ポ

おチ●ポ

おチ●ポ

見ず知らずのガキに汚されてしまった



「それじゃあ今日から僕のペットになれるようにいっばい調教してあげるからね♡」  
「彼氏のエーとカズキ君?と居るより幸せにしてあげるからね♡」  
エリカの女性器から引き抜かれた大きなペニス。絶頂の余韻で全身を痙攣させるエリカ

この後行われる「調教」がどんなものか想像するだけで嫌な汗が止まらなかつたが...  
何故か僕はその続きが見たくて画面の前から離れられなかつた...

調教2日目

最初の映像は途切れそこから始まったのは男による悪趣味な「調教の日々だった」



「ほらほら...  
いったらまた重り追加しちゃうぞ☆」

調教7日 女性器に玩具を固定され  
絶頂するたび乳首に重りを  
ぶら下げられたり！

男はエリカの乳房に  
興味があるらしく

調教24日目

またある日には母乳を出せるようにと  
あらゆる器具で乳首を刺激され！

調教71日目

そして調教の間には  
男の欲望のままに  
中出しを受け入れさせられる  
DVDはそんな生活が  
何日にも渡って記録されてきた

そして日付は飛び  
記録映像の最後！

教254日

「よし良いぞエリカ♡  
おチ●ポ掃除良々出来ました♡」



「あぶらう…♡様あ…♡」

「上手に出来ましたからあ…♡  
そろそろお子●ホ解禁おねがいしましゅう♡  
安定期過ぎたらチニハメって  
約束だったじゃないですか♡」

「下品な衣装を纏い  
物欲しそうな顔で  
ち●ここに話しかけるエリカ  
その体は子供を身籠っている  
女性の物だった」

「日付が飛んだ間に  
エリカは妊娠したのだ」

「んゝそんな誘いじゃ全然ダメだよ  
全くバカな豚だなゝ  
もっと下品な言葉選んで  
チン媚び口上しろっつてんだろ？w」

「ううう♡  
チニハコ用豚女のエリカの  
妊娠マ●♡様  
バキバキチ●ホ見て  
マニタラタラなのでえ♡  
いっばいバニバニして  
お説教してやってっつりゃならん♡」

「うゝゝゝwwwwりやゝ見てるカスキ君も  
ドン引きだろうねw  
そうだ！カスキ君に  
エリカお姉ちゃんかどんな風に  
変わっちゃったのか紹介してあげるね♡」

「まずはおっぱい♡  
最初は97cmのGカップだったけど」

「妊娠&調教の結果  
120cmのKカップに  
なりましたwしかもほらw  
母乳もいっばい出るんだよw」

「かがんだ体勢のまま  
乳首を乱暴に捻り上げられると  
エリカのだらしなく育った乳房から  
噴水のように母乳が飛び散る」

「家畜の様な扱いを受けているのに  
エリカはブルブルと乳を揺らし  
母乳をまき散らしながら  
悦楽の表情を浮かべる」



「ほらーマ○」はどてが感じるの？  
ちやんとカスキ君に実況しながらセックススだろーリバカ豚！！

「はいはいい♡ポルチオおおお♡  
赤ちゃん入ってるトコの入りのい  
様子のチンチ●でゴリゴリしゃれるの  
しゅきいい♡あつヤツべえ♡  
これイグう久々のポルチオ刺激ヤツッバいっ  
イグイグう♡」

「イク時はどうすんの？wちやんとやれよ」

「うんうん♡」

ぶぶよおおお♡♡♡

ぶほっ♡ぶひよおお♡

様ばんざあらい♡

アクメさせていただきまひゅうう♡  
ぶひよおおお♡」

ぶひよおおお♡

ぶひよおおお♡

いっしょん♡  
いっしょん♡

いっしょん♡

いっしょん♡

あう♡

うん♡

うん♡

うん♡

うん♡

うん♡

身重の体にも関わらず  
豚の鳴き真似をしながら  
母乳と愛液をそこら中にまき散らし  
全身運動でち●こを摩擦するエリカ  
余程厳しく躡けられたのだろうか  
とんでもない醜態をカメラに  
収められているのに：  
一心不乱に豚の鳴き真似をしながら  
絶頂し続けるその姿を見て俺は察した

もうなんに写っている女性は  
僕の知っているエリカではない  
そこに映っているのは—

「うへへwチ●擦るの上手になったね  
ご褒美にベッドいごうかw  
カスキ君に見せつけながら  
いっぱいイかせてあげるからね♡」

「あうっ♡」様大ひびき♡♡  
豚マ○で誠心誠意  
奉仕いたします♡♡」

「ほら豚！忘れてるぞw  
元カレカスキ君にメッセージ♡」

「はっ♡♡」

やばい♡

うん♡

肉欲に溺れた「二匹の雌だった

「カズキさん♡見てるかな♡」  
「おち○ちん無しじゃ  
もろこの」  
「様のおち○ちん無しじゃ  
生ぢられな体になつちやうたの♡  
だからもう私のことは忘れてね♡」

あゝ♡

はは♡

はは♡

ふっ♡

はは♡

はは♡

「あつてもあゝもし私のことを忘れられななら...  
様宛に感謝の言葉と  
続編を送つてもらうようにお願ひしてね♡  
様どうも優しいからあゝ...  
さつとこのEメールよりもエッチな撮つて  
送つて下さると思うよ♡  
それでらっばちんちん♡」  
「シ」  
「それじゃあ  
様のおち○ちんお待たせしちやうてるからあ...  
変態中出し交尾続けるね♡」

「うへへwwwサイコーだよエリカ♡  
まだまだ出せそうだから  
このままもう一回挿れようか♡」  
「はい♡様あ...♡  
お腹の子共々様にお預けて  
とっても嬉しいでしゅ♡  
もっといっぱい交尾しててえ♡♡」

好きだった人の変わり果てた姿、  
男としての敗北を目の前にして  
僕は涙と勃起が止まらなかつた

好きだった。  
こうして取り返しつかなくなる前に  
行動していればと思うと  
悔しくて悔しくてたまらなかつた。

もう僕にはエリカとの未来は  
なくなつてしまつたんだ

こんな思いをするならあの時  
もっと勇気を出していれば  
良かったのに

ひゃあひゃあ

そんなことを考えても  
もう  
もう何もかも遅すぎた